

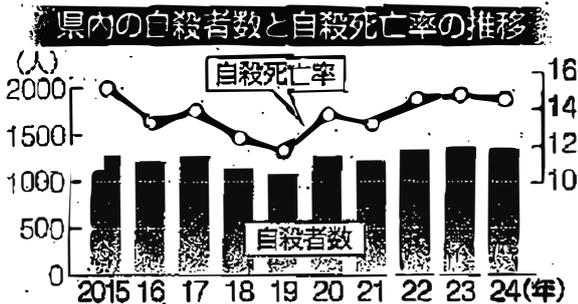
# 24年県内自殺者1342人

## 3年ぶり減も若年層増加

県は2024年に県内で自殺した人が前年比24人減の1342人だったと公表した。減少は3年ぶりで、

男性が同15人減の883人、女性が同9人減の459人だった。

人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺死亡率は同0.3人減の14.5人で、全国平均の16.4人より低く、鳥取(12.1人)、石



県は2024年に県内で自殺した人が前年比24人減の1342人だったと公表した。減少は3年ぶりで、

男性が同15人減の883人、女性が同9人減の459人だった。

人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺死亡率は同0.3人減の14.5人で、全国平均の16.4人より低く、鳥取(12.1人)、石

川(13.4人)、京都(13.9人)、佐賀(14.0人)に次いで5番目に低かった。

年代別では50代が285人で約2割を占め、4年連続で最多だった。次いで40代が205人、20代が196人、30代が174人の順

20歳未満は60人だった。前年比で30〜70代が減少した

一方、20代と20歳未満はともに19人増加。若年層の増加傾向が目立った。

自殺の原因・動機(複数計上)は「健康問題」(876人)が最多で、10代を

除く各年代でトップだった。以下、生活苦や負債など「経済・生活問題」(353人)、夫婦や親子関係

の不和など「家庭問題」(313人)、職場の人間関係や環境変化など「勤務問題」(175人)が続いた。10

代に限れば、学業不振や交友の不和など「学校問題」

が最多だった。

職業別では年金生活者や失業者ら「無職者」が前年に比べ13人減ったものの727人で半数強を占めた。「学生・生徒等」は95人で、同33人の増加となった。

市町村別では横浜市(503人)、川崎市(213人)、相模原市(192人)、藤沢市(73人)、横須賀市

(68人)の順に多かった。県は「若年層の自殺の増加傾向を憂慮している。原因や動機は複合的だが、一人で悩まず相談してほしい」としている。24時間体制で受け付ける「こころの電話相談」フリーダイヤル(0120)821660

6や、LINE(ライン)による「いのちのほっとライン」@かながわ(水曜や

祝日などを除く午後5時〜午前0時)などを開設している。(大槻 和久)

祝日などを除く午後5時〜午前0時)などを開設している。(大槻 和久)

Me

# 対策白書 薬の過剰摂取深刻化

政府は24日、2025年版の自殺対策白書を閣議決定した。24年の15〜29歳の若者の自殺者は3125人で、5年連続で3000人を超えた。若い女性は医薬品などの服薬による割合が高く、20〜30代前半では自殺未遂歴がある人が4割を超えた。近年市販薬の過剰

若者の自殺者が高止まりしている状況を受け、今年度の白書は若者の自殺について詳しく分析した。

男女別では男性1859人、女性1266人。各年代で男性が女性を上回ったが、10代後半のみ女性(347人)が男性(313人)より多かった。原因・動機は学生、社会人といった属性や年齢により傾向が違っている。大学生などの場合、

男女とも21歳が最多で、主な原因はいずれも進路に関する悩みだった。

自殺未遂歴の有無が自殺に至る大きなリスク要因となる。23、24両年の調査から未遂時の手段を見ると、40歳未満ではODが6割を超えていた。未遂歴があった割合は全年代で女性が多

く、平均は3割だったが、20代は4割を超え、30代前半まで同水準で推移していた。厚生労働省の担当者は「ODへの対策が自殺未遂対策としても重要と位置づけている。また再び自殺を試みないよう包括的な支援が必要だ」としている。

24年の自殺者の総数は2万320人と前年より1517人減少し、統計開始以降2番目に少なかった。ただ、小中高生の自殺者数は前年から16人増の529人で統計開始以降最多となった。

【肥沼直寛】

不安や悩みの主な相談窓口はこちら

